



社会福祉法人

香川いのちの電話

通信

第64号

相談電話

みみをかたむけなやみゼロ

087-833-7830

FAX相談

むつんでいちばんしみじみ

087-861-4343

(24時間年中無休)



男木島 写真提供 宮武則明

いのちの電話を何に例えましょうか？

カトリック司祭

カンバラ・デシデリオ

最近、町を歩いていても、携帯用酸素ポンベを使って散歩したり、買い物をしている人を見かけます。この酸素療法によって病気を持っている人たちが、心臓の負担を軽くしたり、息切れを少なくできるからです。外出したり、仕事を続けたり、旅行にも行けるそうです。携帯用酸素ポンベによって、住み慣れた自宅で療養できることは、患者さんにとってどんなにか安心感があり、趣味や家族との生活にも生きがいを与えることでしょう。

またCPAP(シーパップ・経鼻的持続陽圧呼吸法)という睡眠時無呼吸症候群の人のための治療器具もあると医師の方から聞いたことがあります。この方法は、圧力を加えた空気を鼻から送り込んで、気道の閉塞を取り除くのだそうです。そして、この方法は睡眠中のみを使用されるのです。この器具によって、生涯が全く変わった人もいるそうです。私はこれらの器具の事を知って、医学の進歩に感心するとともに、またこのことは「いのちの電話」に、例えられると思いました。

人が人生を歩いていくときに、時には病苦や突然の解雇、人間関係のもたらす複雑さから、人は疲れ果て、生きる力を失い、息苦しさで倒れそうになる時、もしこの人が「いのちの電話」を知り、相談し、自分の心の中を打ち明けることが出来たら、どんなにか助かることでしょう。「いのちの電話」で多くのボランティアの方々が日夜、悩む人、生きる力を失くしている方々の声にまず耳を傾け、聴き、受け入れてその人と寄り添って行かれることは、今の世界に、ことに日本に一番必要なことでしょう。皆様に心から感謝したいと思います。

「あなた方はわたしが餓えている時に食べさせ、渴いている時に飲ませ、旅をしていた時に宿を貸し〜これらの最も小さい人にしたことは、わたしにしてくれたことである」(マタイ：25、35章から)



震災ダイヤルは 2013年9月30日20時をもって終了いたしました。

2011年3月(第1次)から始まったこの「震災ダイヤル」はいのちの電話創立者のおひとりドイツ人のルツ・ヘットキャンプ氏がドイツ各地で集められた震災寄付金をはじめ、全国の相談員からの災害義援金や中央共同募金会(通話料無料)・NPO法人エキスパートアソシエーション、朝日生命醸金、日本郵便株式会社(年賀寄付金)などその他皆様のご支援をいただき相談事業を継続しておりましたが2013年9月30日をもって終了しました。ご利用ありがとうございました。



- 2013年9月30日までの相談件数
41,446件(男22,610 女18,836 10月21日現在集計)

震災ダイヤルニュース最終号より

● 被災者、相談員の声

当初は「ショック」「混乱」の中で避難所から「悲鳴」と「怒り」の言葉が多くありました。その後、徐々に「対人関係」や「身の回りの不満」など、具体的な生活状況に関する内容に変化していきました。遠く離れたところで受けることにある種の戸惑いもありました。被災地でなければわからない細かい情報や手続きについて問われたりもしました。精神の問題を抱えた人たちの不安は特に大きかったと思われます。

相談員はただただ、黙って聞くしかない電話の前で胸を痛めてきたのです。相談員が一つ一つの対話に籠めた優しさが被災者に安らぎをもたらすものとなったと信じます。

「毎日ゆっくり眠れない。地震が続いて死んでしまいたい。大草原でごろごろしてみたい」

「半年たっても何も先が見えない。毎日自分が嫌になる。忘れたい、神様がいるのならすっかり忘れさせてほしい」

「親戚に厄介になっているが、ここにも居づらい。酒を飲むのにも人の目が気になる」

「周りには何もなくなった。みんな死んでしまって、生きているのが申し訳ない」

————— 当初このような言葉が語られていました。

● 震災ダイヤル受信状況

〈2013年9月30日までの相談件数〉

	男性		女性		総計	
	香川	全国	香川	全国	香川	全国
1次 11年3月～(2週間)	25	890	26	625	51	1,515
2次 11年9月～12月	101	2,747	39	1,492	140	4,239
12年1月～12月	228	9,930	209	8,549	437	18,479
13年1月～9月	211	9,043	200	8,170	411	17,213
総計 13年9月30日集計	565	22,610	474	18,836	1,039	41,446

全国で約4,300人、香川県では364人の相談員が担当しました。受信件数を年代別にするると最も多かったのは40代でした。

〈年代別受信件数の多かった順〉

①40代 ②30代 ③50代

相談員は、毎月平均約1600件の電話を受けたことになります。「心が落ち着いてきました」「遠く離れたところから心配していただきました」等の言葉をいただきました。

第31回いのちの電話相談員全国研修会おおさか大会が開催されました

第31回いのちの電話相談員全国研修会おおさか大会

テーマ **わすれてへんで、あんたのこと ～みんな誰かの大切な人～**

期間：2013年10月25日(金)～27日(日)

会場：大阪国際交流センター



相談員の資質向上を図ることを目的とした「いのちの電話相談員全国研修会」。第31回目となる今回は、全国より約900名、香川県からは15名の相談員が開催地である大阪に集まり、熱意あふれる大会となりました。大阪らしさが随所に盛り込まれ、館内研修だけではなく、フィールドワークも取り入れられました。3日目のトークセッションは公開講座として開かれ、一般市民の参加も交え共に、明日に向かう「自殺予防・いのちの電話」の活動を考える機会となりました。

●基調講演

演題 自分を贈りあう関係を

講演 鷺田清一氏

日時 10月25日(金) 15:00～16:30

会場 大阪国際交流センター

●分科会・ワークショップ

日時 10月26日(土) 10:00～12:00 13:00～16:00

会場 大阪国際交流センターほか

●トークセッション 一般公開講座

演題 明日(あした)へ ～いのちと向き合う現場から～

ゲスト 湯浅誠/香山リカ/オキタリユウイチ

日時 10月27日(日) 10:00～12:00

会場 大阪国際交流センター

※プログラムの一部

「いのちの電話」はあなたのご支援を必要としています

いのちの電話の活動は、多くの善意あるボランティアの無償の奉仕によって支えられています。眠らぬダイヤルの施設維持費、相談員研修費、広報活動など、年間1千万円の資金が必要となります。ボランティア活動である「いのちの電話」は、それを支える財政的基盤は大半が市民の、あるいは企業や諸団体からの寄付で支えられています。ひとりでも多くの方に資金ボランティアとして関わってくださいますよう、お願い申し上げます。

【後援会費】

- ・ 個人会費……年頭①2万円 ②1万円 ③5千円 ④2千円
- ・ 団体会員……年頭①10万円 ②5万円 ③3万円 ④1万円

【寄付金】 金額はご随意です。クリスマス、歳末など折にふれてご協力下さい。

〈振込先〉

社会福祉法人香川いのちの電話協会
理事長 小島 克己

《お振込みは下記のいずれかをご利用下さい》

- ・ 香川銀行本店(普) 1389129
- ・ 高松信用金庫本店営業部(普) 4821464
- ・ 百十四銀行本店(普) 1473589
- ・ 郵便振替1600-5-9348

香川いのちの電話公開講座

いのちをみつめて
～生きるということ～

手話・
要約筆記が
つきます

講師 細谷 亮太氏

(ほそや りょうた)

聖路加国際病院 小児総合医療センター長

日時 2014年2月8日(土) 13:30～

場所 サンポートホール高松 3階大ホール

参加費 1000円(当日券1100円)



香川いのちの電話協会
電話相談員を募集しています

【お問合せ】香川いのちの電話事務局 087-861-7065

24時間 365日

香川いのちの電話
「思いつめずにいっしょに話そう」

みみをかたむけなやみゼロ

電話相談 **087-833-7830**

むつんでいちばんしみじみ

FAX相談 **087-861-4343**

毎月10日、フリーダイヤルの日

自殺予防 いのちの電話

0120-738-556

毎月10日8:00～翌日8:00

支援者を訪ねて

19 有限会社津和商事 介護付有料老人ホーム幸寿荘 代表取締役 松之内 三津子氏



—幸寿荘様には、ご支援、またリサイクル事業にもご協力いただき、有難うございます。香川いのちの電話とのかかわりについてお尋ねします。

20年来の友人が香川いのちの電話の後援会で支援していることを知り、私共も「いのち」お預かりしている面で賛同し、小さな事ですが、協力したいと思いました。

—いのちの電話について、一言お願いします。

私共の施設にも、介護福祉士の相談員がいます。体調面は、看護師が担当、看護しますが、心のケアは介護福祉士が担当しています。介護福祉士の相談員は、入居者さんの悩み事等、毎日のように聞いています。その他、施設の行事として、季節の花を

見に行ったり、お買い物レクリエーションや、お誕生日会、幼稚園からの慰問等、日々の暮らしを出来るだけ楽しく過ごしていただくように職員一同で努めています。私も入居者さんの話し相手になることがあります、本当に、聞くことしかできません。話を聞く時はなるべく否定の言葉は使わず、肯定する言葉を使うようにしています。顔の表情や、態度でも接する事が出来、かける言葉が無い時にも、手を握るだけでも心を伝えることが出来ます。けれども、電話の場合は、言葉だけが心を伝える手段ですので、ご苦労されている事と思います。お互いに「いのち」をお預かりする立場だと思いましたが、心を痛めている方々へ一筋の光となるよう、続けていって欲しいと願っています。

—ご協力に本当に感謝しています。今日はお忙しい所、私たちと共通する思い、働きについて色々とお話を聞かせていただき、有難うございました。これからもよろしくお願い致します。

20 香川銀行 本店営業部 事務長 本店営業部宮脇出張所 次長 今川 浩隆 氏



—ご支援を頂き有難うございます。香川いのちの電話との関わりについてお伺いします。

当銀行の行員で、香川いのちの電話の後援会に協力されている方がおられて、その方の紹介で、その趣旨に賛同して協力をさせて貰っています。

—いのちの電話と聞いて、どのようなイメージをお持ちですか？

日本では3万人くらいの自殺者が毎年いる中で、家庭とか、一般社会では、なかなか相談しにくい状況の方がいっぱいいらっしゃると思います。その中で、電話相談の窓口がそういった方々の駆け込み寺のようになっているのは、とても大事なことでないかと思います。

—自殺される方が毎年3万人もいる事について、どのように思われますか？

やはり悲しいことですね。私も、子どもを持つ親として、年齢層はどうか分かりませんが、若い子とか、年配者が多いとは聞いてます。高齢者の方は核家族の中で、私の親もそうですが、独り暮らしで生活範囲も狭くなっています。隣近所のコミュニケーションも少なくなっているし、そういう孤独

感、孤立化するケースが多いと思います。そういうのも一つの原因かなと思います。

—ご存知かと思いますが、フリーダイヤルというのがあります。国の協力・支援もあって無料で電話相談が出来ます。国も力を入れて動き出していますが…。

社会保障が充実しているようで、やっぱり富める者と貧しい者を比べると、年金生活者が程度の年齢になると、その中で、やっぱり金銭的な問題が自殺につながっているのかなと思います…。

—来年10月に香川いのちの電話が30周年を迎えます。香川いのちの電話に対してご要望をお聞かせください。

いやあ、もう30年も続けられること自体、なかなか大変なことだと思います。これからも末永く、地道な活動だと思いますが、続けていただけたらと思いますね。

費用のこともあると思いますが、ボランティアの方がもっと増えて、ネットワークが広がってほしいと思います。助けたいという気持ちの人は、結構いらっしゃると思います。でも具体的にどこがやっているのかというのは、全く知らなかったです。もっと知らせていけばどうですか。

—貴重なご意見をありがとうございました。これからもよろしくご支援をお願い致します。

宮武則明プロフィール (2006.6より写真提供者)

高松市円座町在住。元讃岐写真作家の会所属。現在「ギャラリーMON」(朝日町)において定期的に作品展を行っている。写真集「讃岐の町並」讃岐写真作家の会著ほか9冊発刊。「香川の歳時記365日」四国新聞に写真提供。現在も活躍中。

発行所 社会福祉法人香川いのちの電話協会
〒760-8691 高松市中央郵便局 私書箱152号
事務局 電話 (087) 861-7065
発行人 小島克己 編集 広報委員会